

二人の心を重ねて愛のある家に



魂の安らぐ家を目指して

日頃は意識していなくても、大きな自然災害などに見舞われたときには、多くの人々が自分の力の限界を知り、家族の絆の大切さに気付きます。社会の変化により、家族と離れて暮らす人が増えても、折有るごとに家族と連絡を取り、心がつながっていれば、孤独ではありません。盆や正月には、各地の道路が渋滞するほど、多くの人が家族との触れ合いを求めて実家に帰ります。いつでも自分を受け入れてくれる家族の存在は、時代が移り変わっても、お金や物で代えることのできない、大きな心の支えです。

結婚して新たな家庭を築こうとする人も、求めているのは、自分の支えとなる家族です。仕合せな人生を歩むために欠くことのできない家庭、その在り方を、神はこのようなお教えくださっています。

神 示

—— 仕合せの基は、和のある家庭 ——

心で生きる人間は 魂安らぐ「家」を求めて生きている

「愛ある家」築けたならば 人は誰も 心明るく ゆったりできる

家庭の貴さとうと気付いて 神の教えを我が家に入れる

神の手の中 眞実の愛こころに心触れ 純な愛が家族をつなぐ

六つの花びら咲き誇り 子々孫々心の道につながってゆく

信者に申す

「家庭の眞理」学び深めて 家族それぞれ 立場踏まえて生きるべし

神の心 我が家に根付いて 和のある家を手にできる

結婚すれば、夫となり、妻となり、子供が生まれれば、父、母と呼ばれます。両親は、祖父母となり、孫の愛らしさに目を細めることでしよう。やがて子供たちも、社会へと巣立ちます。仕事に就いて、責任の重さに戸惑ったり、人間関係の難しさに悩んだりすることもあるでしょう。そのようなときでも、愛のあふれる我が家に帰れば、安心感に包まれ、心を立て直せます。心が癒やされて、置かれた状況を受け止め、乗り越えようとする強い気持ちになれるはず。月日がたつて振り返ったとき、うれしいことは一緒に喜び、苦しさに負けないように心を支えてくれたのは、他の誰でもない、家族の存在であったことに気付くでしょう。

こうして力強く支えてくれる家族であつても、わがままで、自分の思いばかり主張した